4年1組 体育科学習指導案

令和8年11月17日（火）第5校時 体育館 指導者 永田 陽平

1 単元名 とび箱運動

2 単元目標

○ 跳び箱運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、自己の能力に適した切り返し系（開脚跳びなど）や回転系（台上前転など）の基本的な技を身に付けることができる。

（知識及び技能）

○ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。（思考力、判断力、表現力等）

○ 跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。（学びに向かう力、人間性等）

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 跳び箱運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、自己の能力に適した切り返し系（開脚跳びなど）や回転系（台上前転など）の基本的な技を身に付けることができている。	・ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができている。	・ 跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができている。

4 指導上の立場

（1） 教材観

本教材は、小学校学習指導要領体育科第3学年及び第4学年、「B 器械運動」の内容「ウ 跳び箱運動」を受けて設定している。中学年の器械運動「跳び箱運動」は、切り返し系や回転系の基本的な技に挑戦しながらその技の習得を目指し、低学年の運動遊びで培った感覚を生かして高学年へつなげる系統的な意義をもつと考える。器械運動の学習は、技の特性から「できる」「できない」が明確に表れやすい。しかし、その価値は単に技を「できるようになること」だけにあるのではなく、より安定した動きや、速さ・大きさ・高さ・なめらかさなどを追究することにもある。そこで本単元では、児童が技の「出来栄え」や「美しさ（速さ・大きさ・高さ・なめらかさ・メリハリ）」を追究していくよう設定する。それぞれの児童が自分なりの課題をもち、その課題に向かって試行錯誤を繰り返す中で運動の面白さを体感することができるようにする。さらに「美しさ」という共通の観点をもって、副読本や参考資料をもとに動きを分析し、友達と動きを観察し合ったり、アドバイスをし合ったりすることで自分の身体感覚のずれを修正していくことのできる有意義な教材である。

（2） 児童観

本学級の児童は、運動全般に対する興味は高いものの、器械運動においては「できる／できない」が明確に表れやすく、失敗経験の多い児童は挑戦そのものを回避しがちである。一方で、得意な児童は既習の技をすぐにこなしてしまい、新たな挑戦を見出せずに活動が停滞してしまう傾向も見られる。また、自分の動きを客観的に捉えるような経験は少なく、「上手に跳ぼう」「美しく跳ぼう」とする意識はあまりない。さらに、「できたのはなぜか」「できなかったのはなぜか」などの理由を考えたり、言葉にしたりする経験も少ない。そこで本単元では、単元を貫く課題を「どうすればより美しく〇〇できるかな」と設定する。そうすることで、技を美しくするための方法や手段を考えたり、言葉にしたりすることを経験する場にしていきたい。

（3） 指導観

器械運動の学習はその技の特性から「できる」「できない」が明確に表れる。そのため「できた」を実感し意欲的に取り組むことで技術が向上していく児童がいる一方、恐怖心から思うように体をうまく動かすことができず苦手意識をもつ児童もいると考えられる。そこで本単元では、単元を貫く課題を「より美しく〇〇できるかな」と設定する。そうすることで、器械運動が得意な児童は「跳び越せた＝終わり」にならず、より美しい動きにするためにはどんなことを意識すればよいかを追究し続けるようになると考える。器械運動が苦手な児童は、場面（助走、着手、第一局面、第二空中局面、着地）ごとの美しさを追究していくことによりスモールステップで達成感を得ることができ、ひいては技の習得につながると考える。美しさを追求する上で、自分の動きとの比較対象として、副読本、NHK ONE for School の番組やクリップ動画を用意する。それらや友達の動きなどと自分の動きを見比べることで、どうすれば美しく跳び越えられるかを考えたり言葉にしたりする手助けとなるようにしていく。

＜研究主題とのかかわり＞

研究主題「自ら学び、決定し、ゴールに向かって学び続ける児童の育成」に迫るために、研修に取り組んでいる。そこで今年度は、「魅力的な単元のゴールの設定」「学び方の振り返り」「放送教育の効果的な活用」の3つに重点を置いて指導を行うことにした。

【魅力的な単元のゴールの設定】

前述の通り、本単元では跳び箱を「跳び越せたかどうか」だけではなく、技の「美しさ」という観点から、児童自ら技の出来栄えを追究していく単元構想とする。そこで本単元の魅力的なゴールを「自分史上最高の『美技』ムービーを作成しよう」と設定する。動画を作成し、友達や保護者、次年度の4年生といった「自分の演技を見せる相手」を設定することで、児童の中に「相手に自分の技のすごさや美しさを伝えたい」「美しくダイナミックな技を習得したい」という意欲が生まれると考える。また、相手の存在を意識することで、「美しさ（速さ、大きさ、高さ、なめらかさ、メリハリ）」に向かい、試行錯誤を重ねながら取り組むことができるようにしたい。

【学び方の振り返り】

本単元では、自分の学び方について振り返りを行う。その際、学び方の視点を明確にするよう留意する。本時の学び方でどんな良い点があったか、次の学び方ではどんな工夫をしていきたいか、目的に応じて副読本やNHK ONE for School、友達の動きやアドバイスを取り入れることで理解が深まった点はあるか、の3点で振り返りを行う。そうすることで、学び方のよさや改善点、自分にとって適切であったかどうかに気付き、次の学習で生かすことができるようにしていきたい。

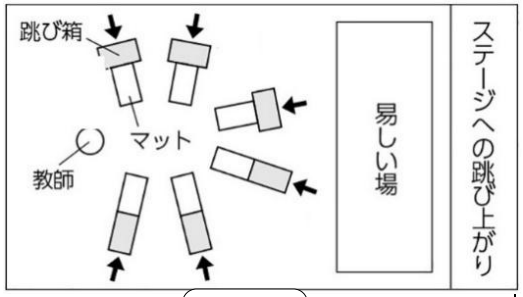
【放送教育の活用】

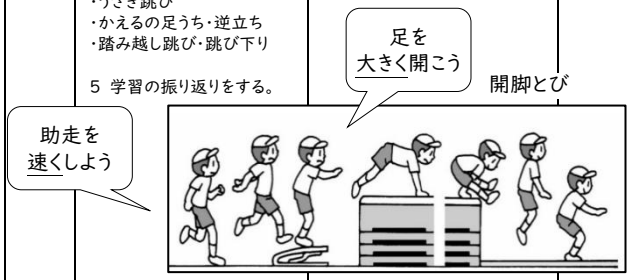
〈第2～第6時〉の視聴教材（「はりきり体育の介」『開脚とびに挑戦だ!』『台上前転に挑戦だ!』）

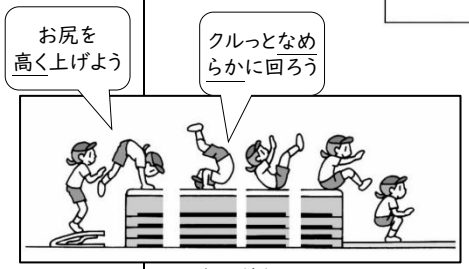
活用の意図	番組特性	見方の工夫			発展的な活動
		視聴前の活動	番組視聴	視聴後の活動	
■児童の学習意欲・動機付けのため ■調べ学習の素材・情報源として ■児童の活動や表現の「モデル」として □児童の考えを広げたり整理したりするきっかけとして □学習内容のまとめや振り返りのため ■番組を起点に、児童自身が課題を立てる活動につなげるため □その他	体育の介の「できないポイント」と一流アスリートの「できるポイント」をスローモーションや比較映像で対比して視覚化している。そのため技の構造（踏切・着手など）や自分のつまずきの原因を論理的に理解して課題解決を図ることができる。	挑戦課題の確認をする。	全員で丸ごと視聴をする。	ポイントを明確にする。 番組を視聴することで出た課題の確認をする。	・番組視聴によって運動のポイントを把握する。 ・動画クリップを情報源として、調べ学習を実施する。 ・情報を収集し行動に移すことで獲得した美しい動きの撮影と共有をする。

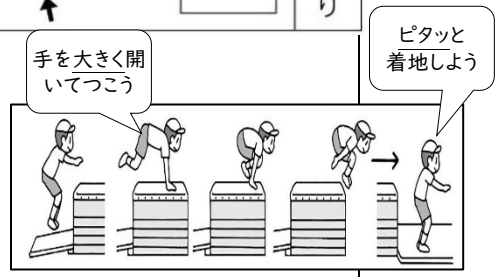
挑戦課題　どうすればより美しく〇〇できるかな。

	1	2	3	4	5（本時）	6	7	8
学習活動	1 跳び箱の楽しさを共有する。 ・跳び箱が越えられるか越えられないかではなく、どのようにして越えるかに焦点を当てる。（映像視聴） →競技を見ると、できるできないに加えて、美しさに採点基準があることを知る。 2 美しさとは何かを考える。 「どこを見て点数が決まっているのか？」 ・速さ ・大きさ ・高さ ・なめらかさ ・メリハリ 3 挑戦課題の設定 「美しく〇〇ができるかな。」 4 チャレンジ運動に取り組む。 ・うさぎ跳び ・かえるの足うち・逆立ち ・踏み越し跳び・跳び下り 5 学習の振り返りをする。	1 チャレンジ運動をする。 2 挑戦課題を確認し、前時の「美しさとは何か」を想起する。 どうすればより美しく跳びこえられるかな？ 3 前時の振り返りをする。 4 切り返し系の技の提示をする。 〈切り返し系〉 ・開脚とび ・かかえこみとび ・横跳び 5「体育の介（開脚とび編）」を丸ごと視聴する。 6 自分のめあてをもつ。 7 課題解決に取り組む。 8 学びを共有する。 9 学習のまとめをする。 10 振り返りをする。	1 チャレンジ運動をする。 2 挑戦課題を確認し、美しさを構成する要素を確認する。 3 前時の振り返りをする。 4 回転系の技の提示をする。 〈切り返し系〉 〈回転系〉 ・台上前転 5「体育の介（台上前転編）」を丸ごと視聴する。 6 自分のめあてをもつ。 7 課題解決に取り組む。 8 学びを共有する。 9 学習のまとめをする。 10 振り返りをする。	1 チャレンジ運動をする。 2 挑戦課題を確認し、美しさを構成する要素を確認する。 3 前時の振り返りをする。 4 自分のめあてをもつ。 5 課題解決に取り組む。 〈切り返し系〉 〈回転系〉 6 学びを共有する。 7 課題解決に取り組む。 8 学習のまとめをする。 9 振り返りをする。	1 チャレンジ運動をする。 2 挑戦課題を確認し、美しさを構成する要素を確認する。	1 チャレンジ運動をする。 2 挑戦課題を確認し、美しさの視点を想起する。 3 学習のめあてを確認する。 めあて ペアで、美しい技の動画を撮り合おう。 4 課題に取り組む。 自分の決めた技で、一番の美技を撮影し、ロイロノートの提出箱に提出する。 5 学習の振り返りをする。	動画鑑賞
NHK ONE for School の活用		【番組視聴】『はりきり体育の介』（一斉） ・課題をつかむ。 ・活動の見通しをもつ。 ・学習意欲を向上させる。	【番組視聴】『はりきり体育の介』（一斉） ・課題をつかむ。 ・活動の見通しをもつ。 ・学習意欲を向上させる。	【番組・クリップ視聴】『はりきり体育の介』（個別） ・調べ学習の情報源とする。 ・活動のモデルとする。 ・考えを整理する。				
教師の主な支援	・跳び箱の競技映像を視聴し、「美しさ」に採点基準があることを知ることで、跳び箱を跳び越せたかどうかだけが跳び箱の楽しさではないことに気づき、跳び箱に苦手意識がある児童も美しさを追究していけるようにする。	【課題のもたせ方の支援】 〇「どうすればより美しく〇〇できるか。」という挑戦課題を設定することで、すべての児童が美しさを追究するための課題をもつことができるようにする。 〇 跳び箱の動きを助走、踏切、着手、第一局面、第二空中局面、着地に分けて示すことで、どの場面に課題を設定するかを明確にすることができるようにする。 〇 チャレンジ運動で技につながる動きをすることで、跳び箱を使っても同じような動きができるようにする。 【活動のさせ方の支援】 〇 児童が自分と友達との動きの違いや共通点を見つけ、技の完成度を高めることができるようにするために、タブレットで撮影し合えるよう場の設定をする。 【学習の支援】 〇 活動の中で、折にふれて「美しさ」を想起させる言葉掛けを行うようにすることで、美しさの視点で活動に取り組むことができるようにする。 〇 技の様相や体の動かし方を教師が言葉にするとき、児童がイメージをつかみやすいようにオノマトペで表現するようにする。					
評価	◎ 課題を意識しながら進んで活動に取り組もうとしている。【主】 ◎ 友達と安全に活動することができている。【主】	◎ 課題を意識しながら進んで活動に取り組もうとしている。【主】 ◎ 技の行い方を知り、技が安定してできている。【知・技】 ◎ 技の習得に向けて、自分に合った解決方法で取り組むことができている。【思・判・表】	◎ 課題を意識しながら進んで活動に取り組もうとしている。【主】 ◎ 台上前転の行い方を知り、技が安定してできている。【知・技】 ◎ 台上前転の習得に向けて、自分に合った解決方法で取り組むことができている。【思・判・表】	◎ 基本的な技の行い方を知り、安定して取り組むことができている。【知・技】 ◎ 自分と友達を観察したり、比べたりして技のポイントを見付けることができている。【思・判・表】 ◎ 自分の課題にあった解決方法を選択し、工夫して取り組むことができている。【思・判・表】 ◎ 跳び箱運動に進んで取り組むことができている。【主】 ◎ 決まりを守り、場や用具の安全に気を付けて活動に取り組むことができている。【主】			



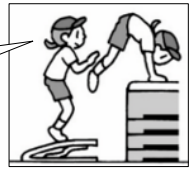
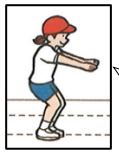






6　本時案（第５時）

挑戦課題	どうすればより美しく○○できるかな。

学　習　活　動	教　師　の　支　援　と　評　価　（◎）
1 チャレンジ運動をする。 開脚とびにつながる動きや、台上前転につながる動きを行いながら体をほぐす。	○　チャレンジ運動で開脚とびや台上前転につながる動きを行うことで、体をほぐしながら体の使い方を意識できるようにする。 ○　単元を通して同じ流れで学習を行うことで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ○　授業の始めに「動きの美しさとは何か」を考えることで、美しさを構成する要素（速さ、大きさ、高さ、滑らかさ、メリハリ）を全体で確認ができるようにする。
2 挑戦課題を確認する。 どうすればより美しくとびこえられるかな。	○　前時の振り返りを共有することで、本時のめあてをもつ際の手助けとなったり、達成するための参考にしたりすることができるようにする。
3 前時の振り返りを共有する。 前回は着地を美しくできるよう活動をした。 ひざの使い方を柔らかくすると、ピタッと美しく止まれたよ。  台の上で美しく回れるよう活動をした。お尻を高く上げるとなめらかに前転できて美しくなったよ。 	
4 自分のめあてをもつ。 (例)・遠くに着地ができるように助走の速さを意識しよう。 ・メリハリをつけるために、ピタッと着地ができるようにしよう。 ・大きな動きにするために、ひじやひざは伸ばそう。	○　とび箱の一連の動きを５つの局面（助走、踏切、着手、空中局面、着地）に分けて掲示しておくことで、自分はどの場面についてのめあてをたてるヒントになるようにする。
5 課題解決に取り組む。  遠くに着地をするために、助走のスピードを速くしてみよう。  ピタッと着地をするために、足の裏全体を意識してみよう。  技の始めや終わりにピシッと手を挙げよう。	○　同じ技同士の友達と交流が生まれるようにするため、段数や技に関わらず自分の課題に合った場を選択し、学習を進めることができるようにする。 ○　活動に前向きではない児童には、スモールステップシートを準備しておくことで、技の習得に関わらず、美しさの視点に立ち返って活動ができる手助けとなるようにする。 ○　自分の動きと手本となる NHK ONE for School の動画を見比べ、客観的に確認できるようにするため、タブレットやタッチパネルディスプレイを活用できるようにする。 ○　課題解決の中でうまくいったことや新たな課題を整理し、美しい動きを全体で共有することで、他の児童の手掛かりとなるようにする。
6 学びを共有する。  助走を速くすると、遠くに着地することができたよ。  足の裏で着地することを意識したらピタッと止まれるようになったよ。  美しさを意識するなら、最初と最後のポーズも必要だと思う。	○　美しい技の感覚をつかんでいる児童がその要因を言葉で伝える場を設けることで、思考の整理をしたりうまくいかない児童がその言葉を参考に活動に取り組んだりできるようにする。 ○　どこがより美しくなったのか問うことで、「美しさ」を構成する要素に動きのポイントが関係していることを確認できるようにする。 ○　段数を変える選択肢を与えることで、跳び箱の高さによる美しさと同じ段数でも体を高くしたときの動きの違いや共通点にも気付くことができるようにする。
7 課題解決に取り組む。	◎　それぞれの技に取り組み、安定してできる。 【知識・技能】 ◎　友達の動きを観察したり、自分の動きと比べたりして技のポイントを見付けることができる。 【思考・判断・表現】
8 学習のまとめをする。 まとめ　○○○○○すれば、より美しい技に近づくことができた。	○　学習のまとめを児童主体で行うことにより、美しい技を目指す上で必要な要素を確認できるようにする。 ○　美しさを構成する５つの言葉を用いてまとめができている児童を称賛することで、学習のまとめとする。
9 振り返りをする。	○　まとめをもとに、なぜそれに気付いたかを問うことで、学び方の振り返りができるようにする。